

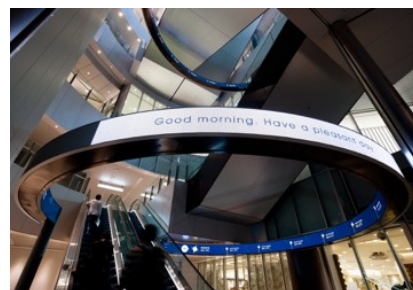
渋谷駅周辺の動線を整備

すべての利用者にとって、安全で快適な街の実現を目指す

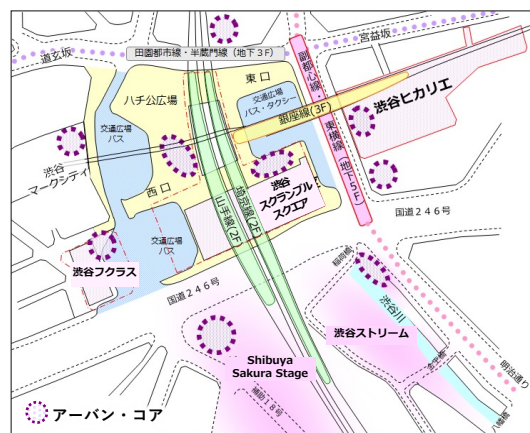
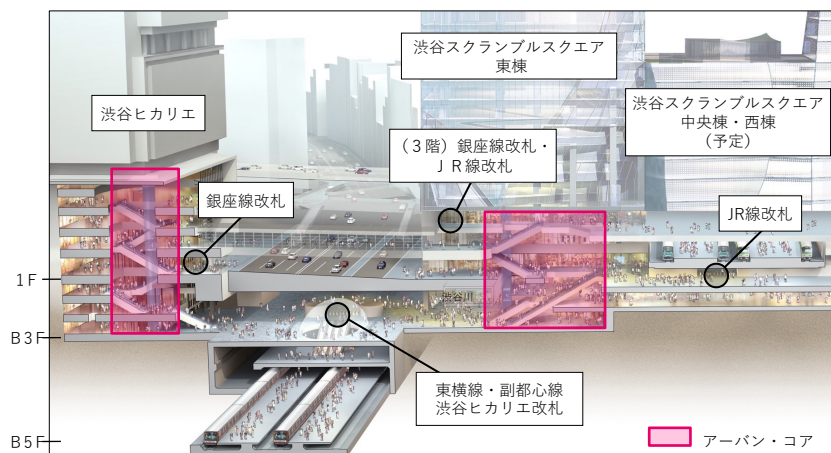
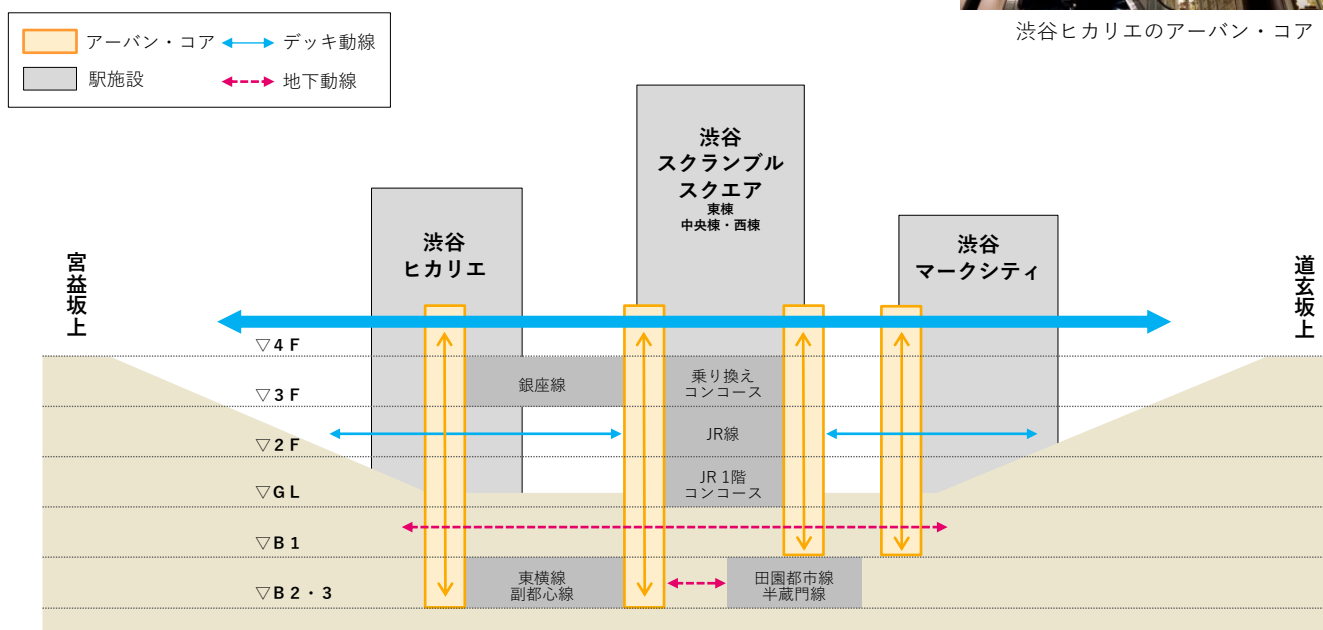
各鉄道会社が谷の底で開発を重ね、発展を遂げた渋谷駅。その結果、利用者にとって街の構造は決して便利なものではありませんでした。再開発にあたり、駅構内の動線を大きく改良し、安全性と回遊性を高めていきます。

1 アーバン・コアの整備

スリパチ状の地形である渋谷の縦移動を便利にするため、地下と地上を結び人々を誘導する、街に開かれた縦軸の移動空間「アーバン・コア」を各所に整備。エレベーターやエスカレーターによって多層の都市基盤を上下に結びます。



渋谷ヒカリエのアーバン・コア



(出典) 渋谷区「渋谷駅中心地区基盤整備方針(平成24年10月)」を一部修正

2 歩行者デッキの整備

鉄道施設や幹線道路などによって分断された街をつなぐべく、駅周辺に広がる歩行者デッキを設置。これにより、スリパチ状の地形に建った複合施設同士を横軸で結ぶことができ、街の回遊性向上を図ります。

1 渋谷駅⇄渋谷フクラス、渋谷マークシティ

東急百貨店東横店建物内の歩行者通路一部閉鎖に合わせ、渋谷駅と渋谷フクラス、渋谷マークシティを接続する2つの歩行者デッキ（「しぶにしデッキ」と「渋谷フクラス接続デッキ」）を整備。渋谷フクラス内の歩行者通路や渋谷駅西口歩道橋を経由することで、桜丘町方面へのアクセスも容易となり、工事期間中も回遊性の高い歩行者動線を確保しています。



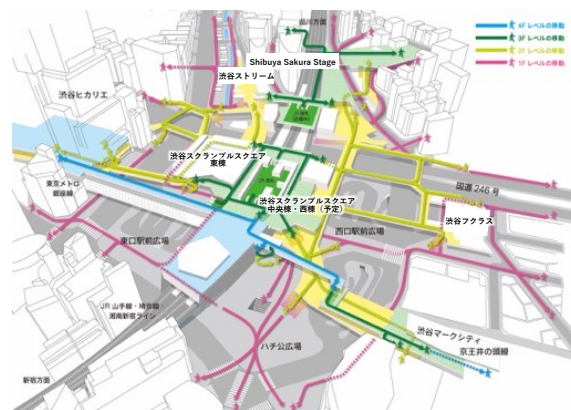
歩行者デッキ全体図
(2019年10月時点)



(上) しぶにしデッキ
(下) 渋谷フクラス接続デッキ

2 渋谷駅⇄渋谷ヒカリエ

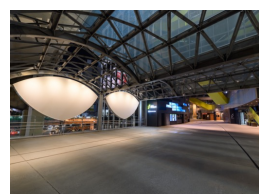
渋谷駅と渋谷ヒカリエを明治通りの上空でつなぐ、全長55メートルの歩行者デッキ。両端で1.5メートルの高低差があるものの、通路内を歩く人が極力その高低差を感じないよう、スロープや踊り場に工夫を凝らしています。



渋谷駅周辺デッキ 整備イメージ

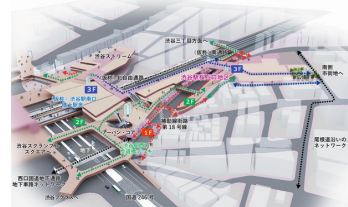
3 渋谷駅⇄渋谷ストリーム

渋谷駅と東口歩道橋、渋谷ストリームの2階をつなぐ「国道246号横断デッキ」。首都高速3号渋谷線および国道246号による分断を解消すべく整備されました。デッキには、旧東横線渋谷駅の高架橋を利用し、人々に長く愛され続けた東横線のアイコンである「かまぼこ屋根」を再現しています。



4 渋谷駅⇄Shibuya Sakura Stage

渋谷駅の新たな交通拠点を担う駅舎の整備に協力し、駅や周辺地区を結ぶ歩行者専用通路や都市計画道路（補助線街路第18号線）横断のための歩行者デッキ、周辺地区と連携した立体的縦軸動線「アーバン・コア」を整備します。地形の高低差や鉄道、国道246号により地域の分断を解消、駅・周辺地区との回遊動線を構築します。

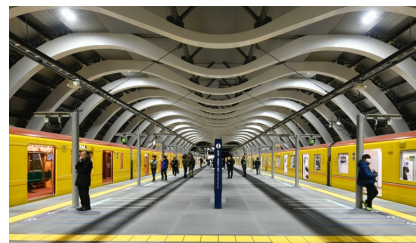


3 東京メトロ銀座線のホーム移設

1938年に東京メトロ銀座線渋谷駅が開業して以来、初となる大規模な改修を実施。これまでの銀座線渋谷駅は、幅の狭いホームや分かりにくい通路、上下の移動が多い構造でありながらそのほとんどが階段であることに加え、トイレがないなど、安全・サービス面で課題がありました。

そこで2009年2月、東京メトロが渋谷駅街区基盤整備と連携して同駅の移設工事を開始。ホームの移設およびホーム形式の改良を通じて、乗り換え動線の改良や、混雑の緩和、安全性の向上を図っています。

新しいホームは2020年1月から供用を開始しています。

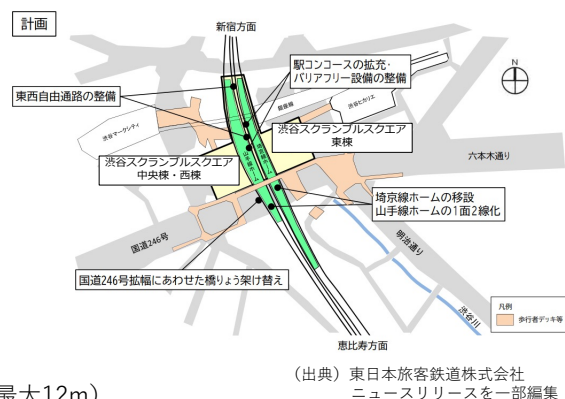


- 東急百貨店東横店の3階に位置していた同駅を表参道駅方向へ約130m移設（渋谷駅東口広場や明治通りの上空付近）
これにより、JR線や東横線、東京メトロ副都心線などとの乗り換え動線が改善
- ホームを相対式ホームから1面2線の島式ホームに変更。従来の約2倍に拡幅し、ホームドアやトイレを整備
- 駅前広場空間の拡充と交通の円滑化を目的に、橋脚数を削減

4 埼京線ホームの移設などJR渋谷駅の改良

JR東日本は、駅周辺の自治体・企業との連携により、「駅」を基点としたエリア全体の価値向上を目指しています。2014年4月からJR渋谷駅の改良を目的に進められていた作業ヤード整備などの準備工事は、2015年9月に本体工事へと移行しています。2020年6月に駅南側にあるJR埼京線のホームをJR山手線と並列の位置へ移設し、埼京線新ホームの供用を開始。2023年1月には山手線1面2線化工事を完了しています。全体の完成は2027年度を予定しています。

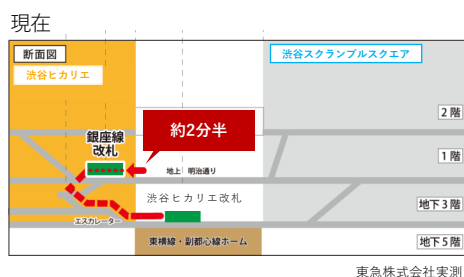
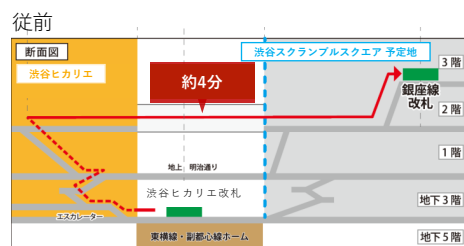
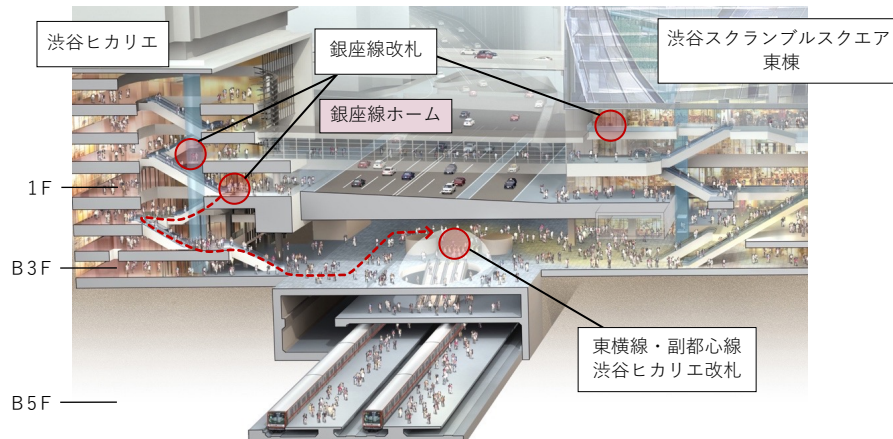
- 埼京線ホームを北側へ約350m移設。
山手線ホームと並列にすることで、乗り換え利便性を向上（ホーム幅員 最大12m）
- 1階部分ならびに3階部分に駅構内コンコースを拡充し、山手線・埼京線の各ホームと接続するエレベーターを整備
- 山手線ホームを1面2線の島式ホームに改築（ホーム幅員 最大16m）
- 1階北側に幅員22m、1階中央部に幅員23mの自由通路を整備



5 乗り換え動線の改良

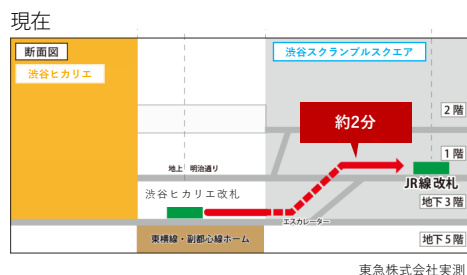
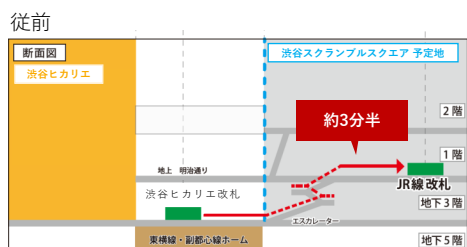
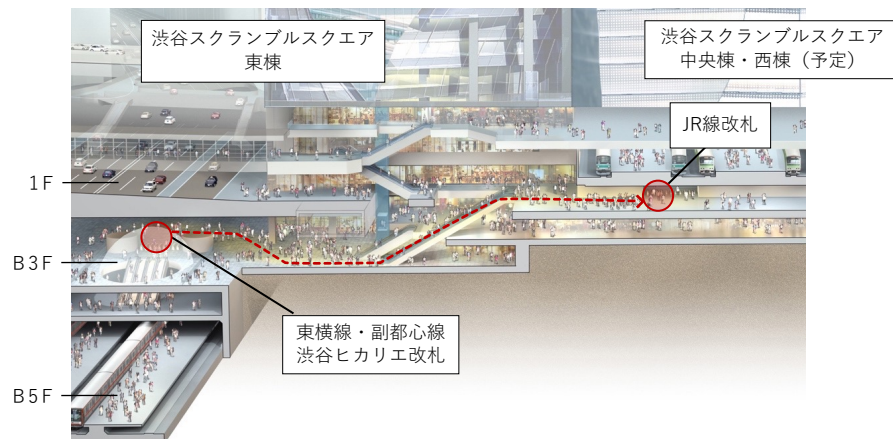
◆ 東横線・副都心線 ⇄ 銀座線

銀座線移設に伴う新改札の設置により、東横線・副都心線の渋谷ヒカリエ改札から銀座線への乗り換えが格段に改善されました。



◆ 東横線・副都心線 ⇄ JR線

2019年1月20日、東横線・副都心線の渋谷ヒカリエ改札からJR線改札に向かうルートが、エスカレーター1本でつながりました。

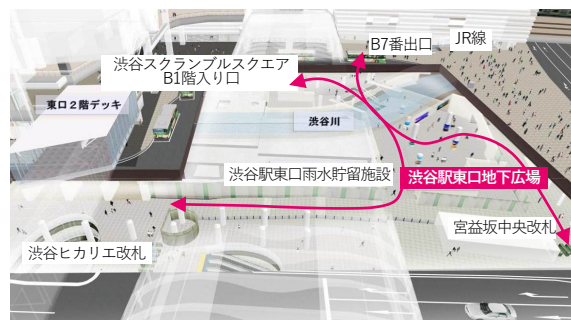


6 渋谷駅東口地下広場を整備

安全で快適な空間を提供するとともに、交通結節機能としての強化を図るため、渋谷駅東口地下広場を整備。JR線・東京メトロ銀座線の高い階層にある駅と、東横線・田園都市線、東京メトロ副都心線・半蔵門線の地下にある駅を結ぶ場所に位置するため、歩行者ネットワークと滞留空間の両面から非常に重要な空間となります。

渋谷駅東口地下広場の整備に合わせて、お客さまの利便性や快適性を高めるための施設が、東京都や渋谷区、一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント（事務局：東急株式会社、東急不動産株式会社、独立行政法人都市再生機構）の公民連携の取り組みにより誕生。地下2階には、都市再生特別措置法に基づき渋谷区が作成した都市再生整備計画による道路占用許可の特例を活用した、情報発信や観光案内機能を持つカフェ、地下1階には「都営バス定期券発売所兼案内所」、渋谷区が設置するパウダールーム、多機能トイレを備えた「渋谷区立渋谷駅東口公衆便所」やコインロッカーを整備しました。

渋谷駅東口地下広場は、歩行空間でありながらも頭上に渋谷川の躯体を見ることができる壮大なスケールの空間です。この空間をキャンパスとした情報発信や広告展開を一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメントが実施することで、にぎわいの創出や街への回遊を促します。



渋谷駅東口地下広場動線

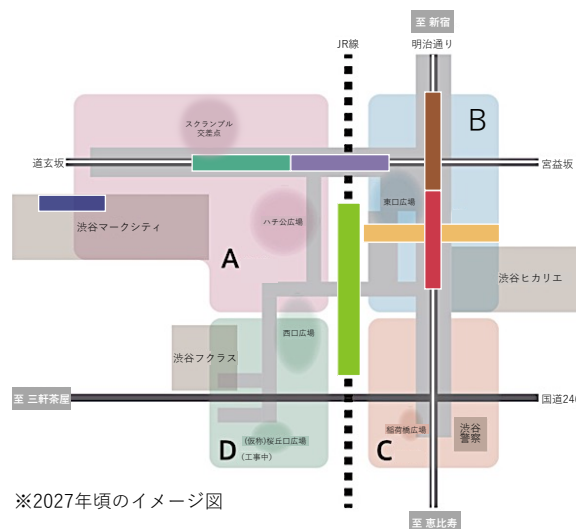


1. 情報発信や観光案内機能を持つカフェ
2. 渋谷区立渋谷駅東口公衆便所パウダールーム内観
3. 都営バス定期券発売所兼案内所
4. コインロッカー

6 案内誘導サインの改善

2019年11月に、渋谷駅の利便性と街の回遊性の向上を目的に、渋谷駅の地下出入口番号を変更しました。今回の変更により、これまでの地下空間の分かりにくさを解消するとともに、将来にわたってサインの連続性が保たれた、分かりやすい街の案内を目指します。

- 地下出入口番号は、エリアごとにアルファベットを付記
- 各出入口はアルファベットと数字を組み合わせて表記
- エリアは地上の街の構造を鑑みて4つのエリアに分け、道玄坂方面を起点に時計回りでA～Dに設定
- 今後の開発などによる地下出入口の新設に対応するため、外周部から中心部に向けて番号付けを実施

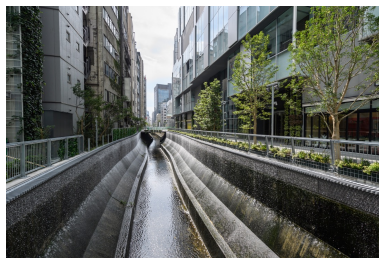


7 渋谷川再生と移設工事

これまでの渋谷駅周辺エリアは歩行者の滞留空間が不足していました。そこで、東横線線路跡地を遊歩道として整備するとともに、渋谷川上空に2つの広場を設置。

あわせて、隣接する渋谷川の水の流れを、公民連携のもと、清流復活水を活用した「壁泉（水景施設）」により再生し、快適な水辺空間が誕生しました。

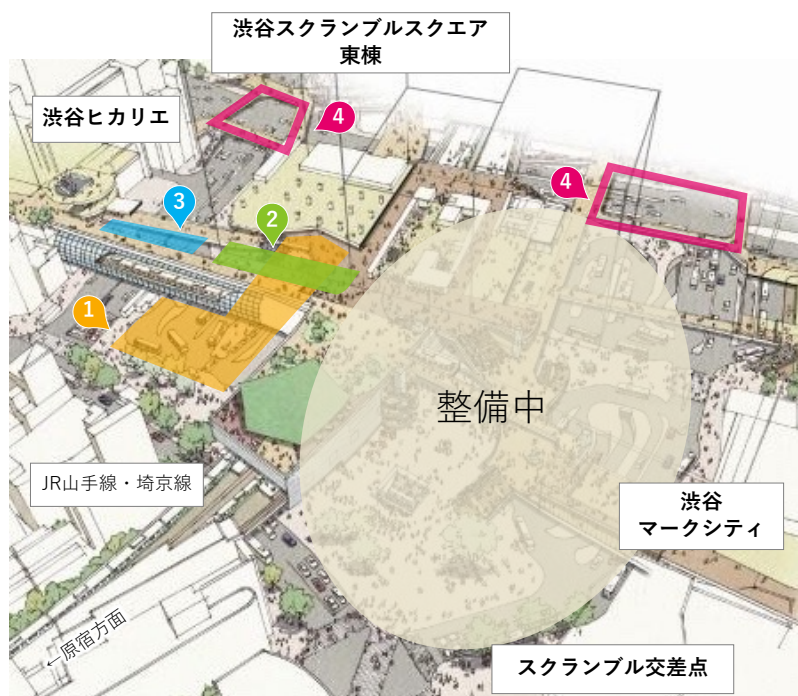
さらに東口の地下では、交通結節機能の強化と安全で快適な地下広場を整備するため、2015年8月、渋谷駅東口の下を通る渋谷川を東側に移設するとともに、下水道施設に変更しました。



9 駅周辺整備の現況と今後の見通し

◆ 現時点の駅周辺整備

2019年11月1日には、渋谷スクランブルスクエア東棟が開業し、渋谷駅東口地下広場も供用を開始。国内のみならず世界から集まる来街者を迎える準備を進めています。



1 渋谷駅東口地下広場（地下）

- 地下の駅と地上の駅を結ぶ公共空間を創出

2 東口アーバン・コア

- 地下2階の東横線・東京メトロ副都心線コンコースから、1階JR線改札と3階JR線・東京メトロ銀座線改札を縦に接続

3 東口2階デッキ

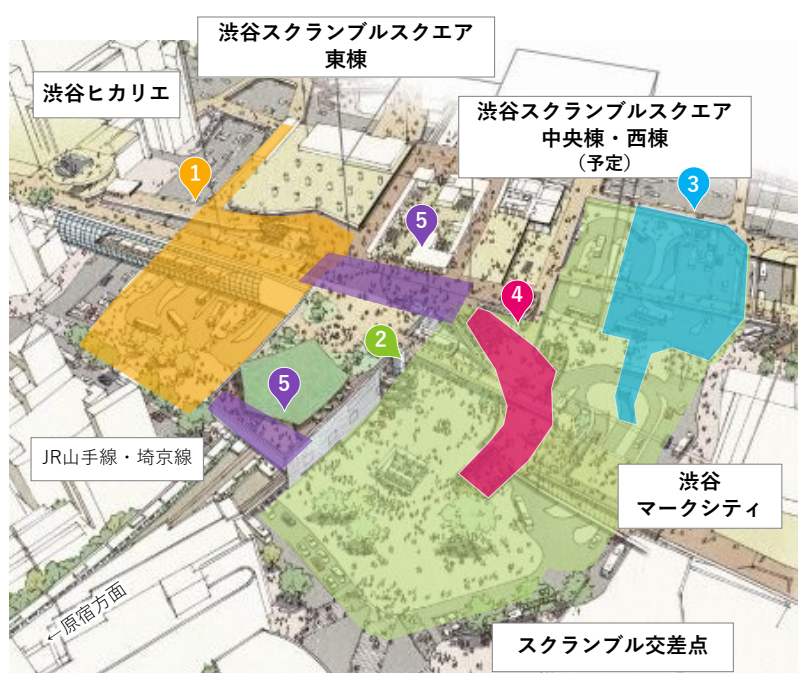
- 渋谷スクランブルスクエア東棟が誕生し、渋谷ヒカリエ・宮益坂方面への接続が可能に

4 東口・西口国道デッキ

- 国道246号にかかる東西の歩行者デッキを拡幅
- 周辺街区との接続を実現

◆ 将来的な駅周辺整備

渋谷スクランブルスクエア中央棟・西棟完成時には、西口駅前広場など残りの駅周辺整備も完了する予定です。これにより、訪れるすべての人にとって、安全で快適な街の実現を目指します。



1 東口駅前広場

- 地上における駅前広場の整備

2 西口駅前広場

- 渋谷駅ハチ公広場の拡充
- バスターミナル再配置

3 西口タクシープール（地下）

- タクシー乗降場の地下化による拡充

4 西口アーバン・コア

- 3階のJR線・銀座線改札から、渋谷駅ハチ公広場、渋谷マークシティ内京王井の頭線改札、道玄坂方面および桜丘方面への動線を創出

5 自由通路

- 東西駅前広場の連続性・一体性を確保する自由通路を拡充